

学校法人 了徳寺学園 柔道部新聞

全日本実業団体対抗大会

男子3部・女子2部でアベック優勝！！



2016年6月11日（土）～12日（日）、宮崎県・KIRISHIMA ツワブキ武道館にて第66回全日本実業団体対抗大会が開催されました。この大会は全国の実業団チームが実業団体日本一を目指す実業柔道最大の大会です。了徳寺学園柔道部は2011年大会以来5年ぶりの出場となり、男子3部、女子2部にエントリーしました。男子は5人制の体重無差別による戦いで、軽中量級中心の布陣ではありましたが、初戦から準決勝まで5人全員オール一本勝ちにて決勝に進出しました。決勝戦でも大型選手を揃える京葉ガスを3-0で下し、全試合を通して無失点での13年ぶり3度目の優勝を果たしました。女子は3人制の階級別（57kg以下、70kg以下、無差別）による戦いの中、男子同様、無失点で勝ち上がり、決勝もJR九州チームを3-0で下し、見事9年ぶり3度目の優勝を遂げました。また、秋本・渡邊・阪本・緒方・角田の5名が大会優秀選手に選ばれました。

【結果詳細】

男子3部：優勝

2回戦 了徳寺学園 5-0 ミナミB

2回戦からの登場となった男子の初戦は、先鋒の六郷が100kg超級の相手を開始早々の巴投による一本勝ちでチームの流れを作ります。次鋒の西山も体重差40kg以上の相手に開始早々の内股で一本勝ち。続いて中堅の重松は支釣込足で有効を奪い、横四方固に移行しての一本勝ちで了徳寺学園の初戦突破を決めます。副将：阪本は自分のペースを崩さず組み勝ったところで内股一本勝ちをおさめます。大将の秋本は開始早々、自分の組み手になった瞬間の背負投で一本勝ち。初戦を全員が一本勝ちにて突破しました。

先鋒	六郷 雄平	○	一本勝 (巴投)		大沼 喜照
次鋒	西山 雄希	○	一本勝 (内股)		戸掘 淳
中堅	重松 賢太郎	○	一本勝 (横四方固)		高橋 芳則
副将	阪本 健介	○	一本勝 (内股)		齋藤 孝弘
大将	秋本 啓之	○	一本勝 (背負投)		高橋 賢右

3回戦 了徳寺学園 5-0 宮崎刑務所



↑先鋒・六郷の一本背負投

開催地の宮崎刑務所との対戦となった3回戦は、先鋒：六郷が118kgの長友に序盤から積極的に攻め、袖釣込腰で有効と消極的な相手に指導が与えられ、流れを作ります。その後、一本背負投で技有と相手に2度目の指導。続けて出てきたところを小内巻込で技有を追加し、合技にて先取点を挙げます。次鋒：西山はケンカ四つの相手に組手でペースを握り、相手が下がったところ大外刈で豪快に一本を奪います。中堅：重松は序盤から前に出て引手を十分につかみ、場外際で上手く体を浴びせ内股で一本勝ち。副将：阪本は組手を嫌う相手に奥襟を取ったところで大内刈、大外刈で攻め、粘る相手を最後は大外刈で仕留め一本勝ち。大将：秋本は初戦同様、開始早々から引手を絞り相手をコントロールし、2本持ったところから素早い技出しで背負投を極め、一本勝ち。

先鋒	六郷 雄平	○	一本勝 (合技)		長友 大輝
次鋒	西山 雄希	○	一本勝 (大外刈)		徳田 翔太
中堅	重松 賢太郎	○	一本勝 (内股)		野村 隼斗
副将	阪本 健介	○	一本勝 (大外刈)		林田 岬
大将	秋本 啓之	○	一本勝 (背負投)		井手 保宏

準々決勝 了徳寺学園 5-0 新日鐵住金大分

準々決勝、先鋒：六郷は奥をたたき相手をコントロールします。相手の釣手を切って直ぐの袖釣込腰で先制点を奪います。次鋒：西山は50kg以上重い相手に対し相手の組手にさせず、自分の流れを作ります。組み勝ったところに斜めからの大外刈で豪快に相手を回し追加点を挙げます。中堅：重松は序盤、組手で相手が崩れたところ寝技へ移行し、三角からの崩上四方固で一本勝ち。副将：阪本は逆背負投で技有を奪い、続けて強烈な体落で一本勝ち。大将：秋本は、開始早々背負投で技有を奪い、そのまま寝技へ移行して崩上四方固に極め、合技による一本勝ち。



↑次鋒・西山の大外刈一本勝

先鋒	六郷 雄平	○	一本勝 (袖釣込腰)		渡邊 英貴
次鋒	西山 雄希	○	一本勝 (大外刈)		宇都宮 杏介
中堅	重松 賢太郎	○	一本勝 (崩上四方固)		原田 遼太郎
副将	阪本 健介	○	一本勝 (体落)		梶原 康廣
大将	秋本 啓之	○	一本勝 (合技)		金崎 康貴

準決勝 了徳寺学園 5-0 アイシン

準決勝、先鋒：六郷は序盤、両襟からの内股で技有を奪います。その後も相手をコントロールし消極的な相手に指導、足技をつないで小外刈を浴びせ、技有を追加して合技による一本勝ち。次鋒：西山は試合をコントロールするが組手にこだわり十分な組手になれず膠着状態が続きます。しかし終盤、組手を変え襟から取ったところで豪快な一本背負投を極め、2点目を挙げます。中堅：重松



↑副将・阪本の内股技有

は序盤から組手争いとなりますが、中盤に相手の引手を落としたところから支釣込足で一本勝ち。副将：阪本は開始早々に奥襟から引込返で技有を奪います。その後も奥襟で相手の頭が下がったところを回して内股で技有を追加し、合技にて一本勝ち。大将：秋本は序盤から釣手でコントロールし背負投、巴投と流れを作り、その後一本背負投で一本勝ち。

先鋒	六郷 雄平	○	一本勝 (合技)		小野 大樹
次鋒	西山 雄希	○	一本勝 (一本背負投)		近藤 将太郎
中堅	重松 賢太郎	○	一本勝 (支釣込足)		山川 稜揮
副将	阪本 健介	○	一本勝 (合技)		澤田 拓哉
大将	秋本 啓之	○	一本勝 (背負投)		田中 力也

決勝 了徳寺学園 3-0 京葉ガス

決勝戦は、股関節を負傷した六郷に代わり、渡邊が先鋒で出場します。序盤相手を小外掛で崩したところから寝技へ移行し、崩上四方固で抑え込み、そこから腕絡を極めて、流れを引き寄せる先制点を挙げます。次鋒：西山は2階級上の寺島と対戦します。序盤に両者へ指導が与えられ、ケン

カ四つの戦いは両者引手が取れない中、組手不十分な状態での攻防が続く。指を持ったとのことで西山にのみ指導が与えられます。その後、西山がペースを作り、下がる相手に場外指導が与えられますが、ポイントを奪うには至らず引き分けに終わります。中堅：重松は超級の須藤に対し、お互いなかなか自分の形になれず、膠着状態が続く両者に3度ずつ指導が与えられ、ここも引き分けに終わります。副将：阪本は序盤からペースを作り、奥をたたき前を出て、組合わない相手に指導が与えられます。その後もペースを握り大外刈で攻め、消極的



↑大将・秋本の背負投技有

な相手に2回目の指導が与えられます。終了間際に払巻込で有効を奪って優勢勝ちを収め、ここでチームの優勝を決めます。大将・秋本は超級の紺野から序盤に背負投で技有を先取りし、その後もペースを変えず攻め続け、相手に消極的指導が与えられます。そして終盤に体落で技有を追加し、無失点での優勝に花を添える合技による一本勝ちを収めました。

先鋒	渡邊 勇人	○	一本勝 (腕絡)		井上 涼太
次鋒	西山 雄希		引き分け		寺島 克興
中堅	重松 賢太郎		引き分け		須藤 紘司
副将	阪本 健介	○	優勢勝 (有効)		林 立峰
大将	秋本 啓之	○	一本勝 (合技)		紺野 大輔

女子2部：優勝

1回戦 了徳寺学園 3-0 京都医健専門学校

初戦、先鋒：角田が開始早々の内股で一本勝ち。続く次鋒：西川が序盤に小外刈で有効、うつ伏せにつぶれた相手を返して横四方固で一本勝ち。大将・緒方が開始早々に奥襟を取り相手を崩し、つぶれた相手を返して腕絡を狙いますが、相手の関節が柔らかく極目きることができず、待てががかかります。その後、緒方の組手になったところで豪快に内股を極め、初戦をオール一本で突破しました。



↑大将・緒方内股一本勝

先鋒	角田	○	一本勝 (内股)		伊吹 佑香
中堅	西川	○	一本勝 (横四方固)		山岡 恭子
大将	緒方	○	一本勝 (内股)		石田 彩

2回戦 了徳寺学園 2-0 ALSOK

2回戦は昨年、一昨年と連覇している ALSOK との対戦となり、大きな山場を迎えます。先鋒・角田は序盤から両者絞り合いが続き、組手が不十分なところに巴投を掛けた角田に指導が与えられます。その後、相手にペースを握られ、再度巴投にいったところに二度目の指導が宣告され、リードを許します。その直後、挽回せんと一本背負投を押し込んで有効を奪い、逆転します。逆転後、少し下がったところ消極的な角田に3度目の指導が与えられますが、終盤前に出てくる相手に巴投を合わせて有効を追加し、優勢勝ちで貴重な1点を挙げます。次鋒は2回戦から西川に代わりヌンイラが出場します。序盤ヌンイラの形になり流れを作りますが投げきるまでには至らず、中盤に両者に指導が与えられたまま終了し、引き分けに終わります。大将：緒方は序盤から激しく前にでてペースを作り、下がる相手に指導が与えられます。中盤に片手からの大外巻込で技有を奪い、そのまま後袈裟固で一本勝し、準決勝に進出を決めました。



↑先鋒・角田

先鋒	角田	○	優勢勝 (有効)		谷本 和
中堅	ヌンイラ		引き分け		渡部 優花
大将	緒方	○	一本勝 (合技)		安松 春香

